

環境保健学特論 I		選択	春学期	1 単位
担 当 者 〔研究分野〕	戸塚ゆ加里 〔衛生化学、生化学〕 山崎 正博 〔衛生化学、生化学〕 今井 正彦 〔衛生化学、生化学〕 長谷川晋也 〔衛生化学、生化学〕			
到達目標・目的	生体外（食品・環境）及び生体内の生理活性物質について理解を深め、健康、老化、病気、治療薬、予防薬との関連性を考察する。			
受講心得・準備学習等	生命の最小単位である細胞についての基礎的な知識を習得し、それらを基にして科学を自分で考え、創造する姿勢で受講する。化学物質による発がんや環境汚染について、厚生労働省や環境省等の刊行物（国民衛生の動向・環境白書・HP）などで予め予備知識を得ておく。			
事後学習・復習等	講義内容について、引用された学術雑誌などで実際のデータを見て確認する。また、報道や官報などで受講した情報の更新を怠らないようにする。			

授業の方法と各回の内容

授業の方法		講 義	
回	項 目	内 容	担当者
1	がんの基礎講座 I	ヒト発がんの要因とメカニズム	戸塚ゆ加里、他
2	がんの基礎講座 II	発がん予防	戸塚ゆ加里、他
3	健康を考える I	化学物質などのヒト健康に対する影響とその規制	戸塚ゆ加里、他
4	衛生学概論	衛生学の成り立ち 疫学から EBM（エビデンスベースメディスン）へ	山崎 正博
5	グローバリゼーションと公衆衛生	医療とグローバル化 グローバル化と感染症 グローバル化と環境汚染	山崎 正博
6	生命を考える I：細胞の増殖・分化	がん細胞、正常細胞、iPS 細胞	今井 正彦
7	生命を考える II：細胞死	がん細胞、正常細胞	今井 正彦
8	毒性試験	毒性試験と代替法	今井 正彦
9	健康を考える II：体細胞変異	体細胞変異と変異シグネチャー	長谷川晋也
10	新しい生命科学技術の応用	遺伝子改変動物の作製と応用	長谷川晋也

成績評価の方法	出席状況、レポート提出を総合的に判断し、評価する。
成績評価の基準	課題に対して論理的な思考過程を経て考察できているか、統計学的・科学的エビデンスを具体的に挙げてできているかを、レポート採点において判断の基準とする。
教科書	プロジェクター或いはプリントを使用する。
参考書など	The Cell、国民衛生の動向

そ の 他	講義内容が多少変更されることがある。2 コマ連続で行う場合がある。
--------------	-----------------------------------